会員の広場

日本気象学会の役員選挙について

根　本　順　吉*

はじめに，“天気” 1986, Vol. 33, No. 7. p. 354 掲載の第24期役員選挙開票結果をよく見ていただきたい．あまりにもその整然たる結果に驚くであろう．次点は皆無，その他は当選者の票数より1桁ないし2桁小さい．

なぜだろうか．端的に言えば，これは仕組まれた選挙だからである．別の見方をすればこれは競争原理にもとづく選挙からは程遠く，一種の信任投票に近いものだからである．

私は選挙がこのような結果になることを事前に予想した．そして1986年6月7日，選挙管理委員会宛書信を送り，選挙がいかに所定の手続きをふみ，会則上は疎漏がないとしても，このような結果になることは学会の民主的運営にとって望ましくないことをのべた．そして，以下，次のような意見を表明した．

1. 推薦候補者は少くとも定員の2倍位迄にするよう努力すべきではないか．私は落選することが民主的運営において，それほど不名誉なこととは思わない．現在のようなやり方が慣習になると，一部の人によって運営される傾向がますます強くなる．

2. 推薦をうけた候補者は様々な所信表明を行っているが，これは主観的な一種の自己宣伝とみてもよいであろう．その場合に真偽のチェックを全くやらなくてもよいのか．

3. 学会役員の任期は通常3年，長くて5年が限度であり，慣れているからといってこれを10年以上もつづけることは，民主的な学会運営にとって決して望ましいこととは思われない．

4. 毎回のことながら，地方の理事として有力大学の教授が，いつも1人は入っているというのも考えてみればおかしな話である．こんなことなら地方理事にはその地方の有力大学の教授は必ず1人はあてるとし，ことさら大学教授を権威づけるような投票はやめたらどうだろうか．

様々な分野と同様，学会も体制化が進み，安泰なお城の中での，平穏な運営がつづいているようにみえる．学会員がそれを望むなら，これもいたし方がないが，私にはもう一度，原点に立ちかえって考える問題があるように思われてならない．御一考下さい．

以上の書信に対し，選挙管理委員会からは今迄のところ何の回答もなかったが，書信の宛先ではない学会の庶務担当理事から再度，丁重なる手紙をいただき，私の手紙を天気に投稿し，全会員に呼びかけるよう強く要望された．

私は当事者，即ち私信の宛先である選管の考えなり，方針なりがはっきりした上で，投稿するかどうかはきめたいと回答したが，10月31日付，庶務担当理事からの書信で“理事会といたしましては，選挙管理委員会とも十分連絡をとりあって，選挙の活発化のための方策を今後さらに検討していきたいと考えております”という回答をいただいた．

学会の細則の第6条2には“選管は監事と共に学会運営のための独立した機関で理事会に従属するものではない”と明記してある．だから私信の宛先である選管から返事が得られぬまま，他の独立した機関の担当者にうながされ投稿することは私の本意ではないが，選挙は会員全体に関することは明らかで，またこのような問題は時機を失すると，唯，論ずるだけで何らの成果も得られぬことになりがちなので，ここに改めて“天気”に私信の趣旨に沿った投稿をした次第である．

ただ何かを言い合うだけではなく，実りある実践と結びつく意見を出すことにより，学会の発展のためにいくらかでも寄与したいものである．　(1986. XI-2)

* Junkichi Nemoto.